

集めた砂鉄「変身」に達成感 一関・大原小児童 文鎮鑄造を見学

一関・大原小(佐藤啓校長、児童95人)の6年生11人は17日、奥州市水沢羽田町の市鑄物技術交流センターで卒業記念の文鎮の鑄造を見学した。児童は昨年、砂鉄を採取してたたら吹きで製鉄。同日は、同市の及源鑄造(及川久仁子社長)の職人がその鉄の塊と

銑鉄を混ぜて溶かし、校章をあしらったデザインの文鎮の型に流し込んだ。児童らは流し込まれる鉄を真剣に見つめた。

文鎮作りは2018年に始まり、今年で6回目。鉄文化を学んでほしいと、たたら製鉄の継承に取り組むホッパの会(勝部昌平会長)を中心に旧内野小から続く学習の一環。鉄の塊から何か作れないかと同社が相談を受けて始まった。

中沢嶺司君は「自分たちの集めた砂鉄が文鎮になり、達成感があってうれしい」と笑みを広げた。

鑄造した文鎮は児童らが磨いて完成させる。

奥州
型に鉄を流し込む様子を見学する児童ら

